

## 広島派遣事業レポート

糸魚川中学校 2年3組 杉澤 結人

私が広島派遣研修に参加した理由は、小学校6年生のときに見た「はだしのゲン」で原爆について知り、そのことに強い関心を持ったからです。この広島派遣研修は、平和や広島歴史について学ぶ良い機会だと思い、参加しました。

私が広島で学んだことは3つあります。

まず1つ目は、被爆二世である多賀さんによる被爆体験講話です。多賀さんは直接被爆していませんが、「原爆被爆を語り継ぐ会」のメンバーとして、ピースボランティアガイドを務めていて、私たち中学生に原爆のことを伝える活動をされています。原爆投下から今年で79年が経ち、実際に被爆した方たちからお話を聞くとことが難しくなった今、多賀さんのようにご家族が被爆された方のお話を聞けることはなかなか無いので今回お聞きしたことを周りの人、下の世代の人に伝えていけるようにしたいと思いました。また実際に溶けてザラザラになった瓦を触らせてもらい、当時の恐怖を肌で感じることができました。

2つ目は、とうろう流しです。私は「世界平和」と「核兵器がなくなってほしい」という願いを書きました。このとうろう流しで、原爆で亡くなった方々に私の思いが届いてほしいと願いました。真っ暗な中で光り輝きながら川を流れるとうろうには、多くの人々の思いが込められていて、それを見ている時間

---

はとても神秘的でした。また、多くの外国人も参加していて、外国語で書かれたとうろうも多く見かけました。広島のごことは日本だけでなく、世界中に認知されているということが分かりました。

3つ目は、平和記念資料館での見学です。まず、被爆前の広島の写真を見た後、焼け野原になった広島の写真を目にした瞬間、胸が締めつけられる思いがしました。美しい街並みが一瞬にして破壊され、多くの命が奪われたことを考えると、言葉にできない悲しみと衝撃を受けました。

暗い空間の中で見たボロボロの服や焼け焦げた三輪車など目をそむけたくなるような物もあり、当時の原爆の恐ろしさがまるでその場にいるかのようにリアルに伝わってきました。当時何の罪もない広島の人たちがこんな犠牲を負ったことを私たちは知っておく必要があると思いました。

この体験を通して、私たちは二度と同じあやまちを繰り返さないよう、平和を守るための努力をおこたってはいけないと強く思いました。また、戦争の恐怖を次の世代に伝え、平和な未来を築くために何ができるかを考え続けることが大切だと学びました。まだ広島に行ったことがない人は、ぜひ自分の目で確かめてみて欲しいと思いました。

---